

# 突然、親から一通の手紙✉ 涙がこぼれる生徒もいました。

12月5日(月)、新崎公子先生が道徳の授業を公開しました(3年3組)。本時は、生命誕生の不思議について理解し、自他の生命の尊さを感じ、共に大切に生きようとする態度を育てることがねらいです(価値項目 D-19 生命の尊さ)。

まず、『5479 という数字の意味は?』と生徒にクイズ感覚で問いかけます。生まれてから満 15 歳までの日数が 5479 日であることから、長い?短い?と生徒との対話を通して、生徒が本時の問い「生命について」を、自分事として捉える工夫がなされていました。

また、授業中盤、**保護者から生徒一人ひとりに一通の手紙が手渡されました。** その手紙は、**保護者直筆による『生徒の誕生エピソード』**です。手紙を読み終えた時の生徒の感情が十人十色で、その時の表情がとても魅力的でした。中には、迷惑をかけたことへの後悔の念が蘇ったのか、涙する生徒も…、これぞ**生きた道徳の授業**だと『生の教材(リアルな教材)』の素晴らしさを感じる授業でした(\*^\_^\*)

### 本時の中心発問:自分の生命はなぜ大切だと思うか?

(Mさん) 自分の命は自分のものだけど、自分の命のことを大切に思ってくれる人はたくさんいる

(Rさん) 親から命をもらい。お母さんが命がけで私を産んでくれた。これまで色々あったけど、苦勞して育ててくれた大切な命である。

(Nさんの振り返り) 今日の授業で学んだことは???

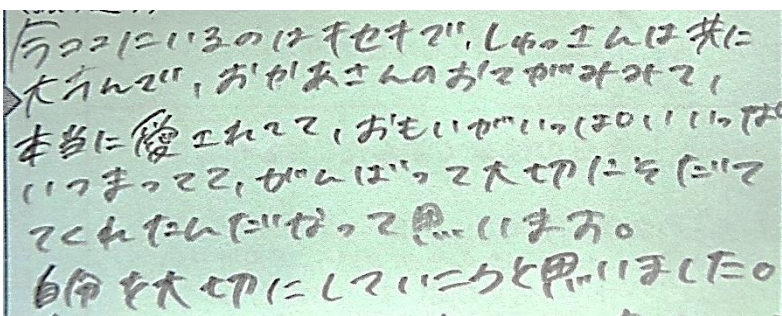


図1 親からの手紙を、写真を添えて紹介している



図2 親からの手紙を読んでいる瞬間



図3 なぜ生命が大切なのかグループ共有

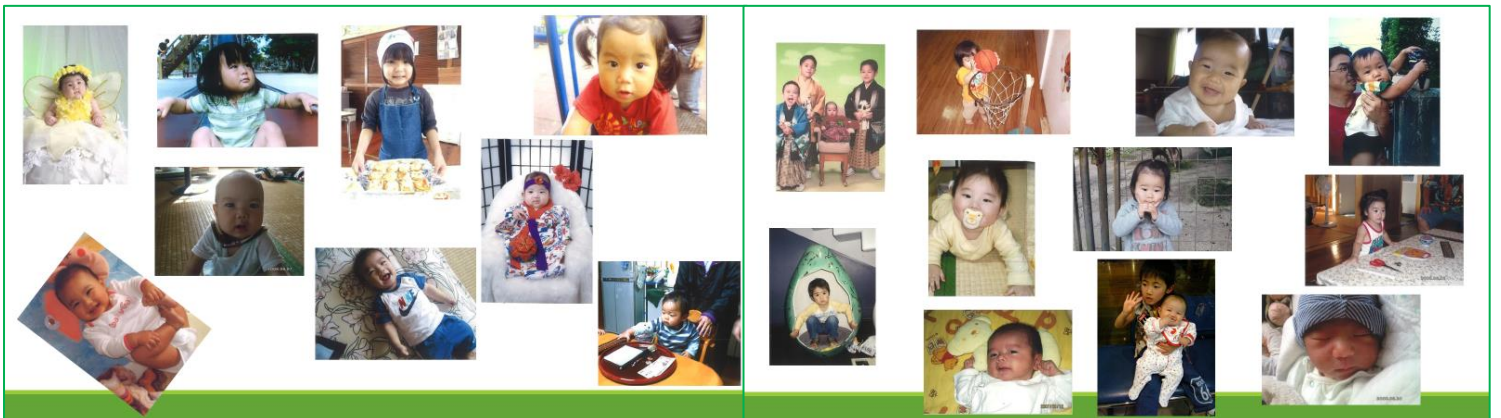


図4 3年3組の皆さんが小さかった頃の写真を紹介、一人ひとりに人生という物語がある。